

研究ノート

ECERS と SSTEWE の視点による保育の質の検討

¹埋 橋 玲 子 ²浜 田 真理子

¹同志社女子大学・現代社会学部・現代こども学科・教授

²学校法人今川学園木の実幼稚園・主任

The Relationship between Free Activity and Whole Group Activity from the Perspectives of ECERS and SSTEWE

¹UZUHASHI Reiko ²HAMADA Mariko

¹Department of Childhood Studies, Faculty of Contemporary Social Studies,
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor

²KONOMI kindergarten Imagawa Gakuen school corporation, Head teacher

はじめに

ECERS (読み: エカーズ) とは Early Childhood Environment Rating Scale の略称であり、1980年にアメリカで初版が発行された保育の質評価スケールのことである (現在は第3版を使用、Harms, T. et al. 2015)。SSTEWE (読み: スチュー) は同じく保育の質評価スケールで、Sustained Shared Thinking & Emotional Well Being の略称であり、2015年にイギリスで初版が発行されたものである (Siraji, I. et al. 2015)。

本稿は、浜田が自園での造形活動について ECERS を念頭に置きながら叙述した事例 (浜田 2019) を材料として、ECERS の「自由遊び」と「クラス集団活動」両項目に注目し、ECERS および SSTEWE の項目・指標に沿い、「保育の質」の可視化を試みる。

浜田の事例について幼稚園教育要領と ECERS を参照することにより、すでに次のことを明らかにした。「クラス集団活動」は、子どもが“環境との関わり方や意味に気づく”(“ ”内は教育要領よりの引用) きっかけとなるものであり、保育者が“自ら意欲をもって環境と関わる”ことへの導きを行うものである。「自由遊び」とは、“環境に関わって展開する具体的な活動”が生まれることを意味する。この両方の形態が“適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにする”ことを可能にする (埋橋・浜田 2020)。

ECERS が保育の総合的な質を測定するものであるに対し、

SSTEWE は保育者の関わりに軸足を置いたものである。本稿では SSTEWE の視点を加えることにより「自由遊び」と「クラス集団活動」の位置づけについて考察する。

1. ECERS、SSTEWE の比較

SSTEWE は ECERS の形式を踏襲したという経緯があり、両スケールとも構成と評定方法は同じである。ECERS は6つのサブスケールのもとに35の項目があり、SSTEWE は5つのサブスケールのもとに14の項目があり、いずれも各項目は10程度の指標で構成されている。サブスケールは保育を評価するための大きな観点 (表1) であり、項目はそれを細分化したものである。指標は具体的な観察のチェックポイントであり、各指標に示されたことが観察されたかどうかを「はい・いいえ」で判定し、その結果により所定の手続きを経て1点 (=不適切) から7点 (=とてもよい) までの7点法により評点を得る。

2. 「自由遊び」と「クラス集団活動」の対比

「自由遊び」「クラス集団活動」とは子どもの活動の形態を指すものであり、順に、個人か小グループで子どもが遊びや仲間を選択する自由な遊びなのか、あるいは保育者が主導するようなクラス単位でのいわゆる一斉活動なのか、ということの意味している。遊びを主導するのが子どもか大人か、ということが眼目である。

表1 サブスケール一覧

* SS =サブスケールの略

ECERS 『新・保育環境評価スケール①3歳以上』	SSTEWS 『「保育プロセスの質」評価スケール』
SS1 空間と家具	SS1 信頼、自信、自立の構築
SS2 養護	SS2 社会的、情緒的な安定・安心
SS3 言葉と文字	SS3 言葉・コミュニケーションを支え、広げる
SS4 活動	SS4 学びと批判的思考を支える
SS5 相互関係	SS5 学び・言葉の発達を評価する
SS6 保育の構造	

(1) ECERSの観点から

a. クラス集団活動について

ECERSの[サブスケール6 保育の構造]【項目35 遊びと学びのクラス集団活動】では、「クラス集団活動」とは当該クラスの子ども全員が参加して、保育者の主導する活動を行うことを指す。子どもは個人的に活動をする場合もあれば小グループに分かれる場合もあるが、いずれにせよ保育者が子どもを一定の遊びや学びに仕向けるねらいのある活動である。クラス集団で食事をするなどのルーチンの活動は含まない。これがECERSによるクラス集団活動の定義であり、ECERS-3の解説書 *All about ECERS-3*³⁾ (Cryer, D. et al. 2019、以下、解説書)によると子どもがその活動を楽しんでいることが必須となる(p461)。

ECERSはクラスの子どもが全員同じ活動に取り組むことに対して積極的に肯定していない。クラスの全員で行う活動は質が高いものとして認められていないのである。【項目35 遊びと学びのクラス集団活動】では〈とてもよい〉の指標として「7.2 集団活動は、通常、クラス全体よりも小集団での活動で行われる」が設けられていることにそのことが表れている。

浜田はクラス集団活動は「みんなでやるからこそ楽しい活動や遊び」と位置付けている(埋橋・浜田 2020、p82)。この「みんなでやるからこそ楽しい」という肯定的な位置づけは、日本の保育者によってほぼ共有されている感覚ではないかと思われる。

b. 自由遊びについて

ECERSでは、「自由遊び」とは子どもが自分で遊ぶものや仲間を選べることを意味している(解説書、p447)。保育者による環境設定や関わりが重要となる。保育者は何を意図してどのように物的環境を整えるかが重要であるが、

さらにそれらの物的環境を通しての保育者の関わりが必須である。

(2) SSTEWSの観点から

SSTEWSでは特に活動の形態に注目しての評価の指標はない。だが、活動の形態を問わず保育者の発話や行動に注目して評価する指標はある。

まず、[サブスケール1 信頼、自信、自立の構築]【項目2 子どもの選択と自立した遊びの支援】には次のような指標がある。

- 〈不適切〉1.2 子どもたち一人ひとりが、好きなように遊んだり活動したりすることを許していない。
- 〈最低限〉3.3 他の子どもたちとは異なる遊びや活動をしたい子どもがいる場合に、受け入れられている。
- 〈とてもよい〉7.2 保育者が、子どもたちが大人に援助されて活動する様子を観察し、そこで生まれる考えや概念等が自由遊びへつながっていくかを丁寧に見ている。

*注：左側の数字は1・3・5・7という〈最低限〉から〈とてもよい〉の段階を表し、右側の数字は各段階での通し番号を意味している。SSTEWSとECERSは同じ手法である。

これらの指標をクラス集団活動または自由遊びという観点から言い換えると、次のようになる。保育者は、子どもが自分の意思と判断に基づいて行う遊びや活動の機会を設け、その意思や判断を尊重しなくてはならない。また、保育者が主導するクラス全体活動では、異なる活動をしようとする子どもに対してその気持ちを認めることが大切である。さらに、子どもの様子をよく観察し、自由遊びの際に、子ども自身が自分の考えや概念をどのように展開させてい

るかを見てとることが求められる。7. 2の「大人に援助されて」とは、クラス集団活動や自由遊びの両方で起こることである。

このように【項目2 子どもの選択と自立した遊びの支援】では保育者が子どもにどのように接し、子どもの何を見るかが示されている。それに対し、[SS4 学びと批判的思考を支える]【項目9 好奇心と問題解決の支援】には次のような指標がある。

- 〈不適切〉1. 1 保育室内の学びのための環境が、常に同じように配置され、同じ素材や教材、活動で構成されている。
- 〈最低限〉3. 1 それぞれの活動時間の中で、使うことのできる素材や教材が多様にある。保育者が、子どもたちが取り組みたくなるような遊びや活動をわかっており、そういうものを選んでいく。
- 〈よい〉5. 1 新しい素材や教材、活動、もしくは挑戦を定期的に用意している。それらは、その時の保育のテーマ、年間における時期、子どもたちの興味や思考の枠組みに関連したものである。
- 〈とてもよい〉7. 4 子どもたちの思考のプロセスと問題解決のプロセスを、保育者が言語化し声に出すことで手本を示し、子どもたちのメタ認知を支援している。また、子どもたちが計画し、実行し、活動の評価を行うのを援助している。

これらの指標は、保育者がクラス集団活動または自由遊びの場面においてどのように素材や教材を物的環境として整えるか、活動を計画・実行するかということに注目している。いずれも ECERS と共通するところであるが、SSTEWE は、保育者の関わりがより計画的・持続的であることを求めている。

3. 保育者と子どもの関わり

ECERS には保育者の関わりに注目した項目としては、[サブスケール5 相互関係]【項目30 保育者と子どものやりとり】があり、大人と子どもの言語的・非言語的コミュニケーションの重要性を示し、以下のような指標が設けられている。

〈とてもよい〉7. 1 保育者は子どもを尊重し肯定的に指導する。

7. 3 保育者は子どもの言葉にならない素振りに敏感であり、適切に対応する。

木の実幼稚園では、クラス集団で行う話し合いの時間を意味する「会話の時間」を重視している。「会話の時間」は以下のように行われる。

事例1：会話の時間

保育者が子ども達に、何かを伝えようとする時、知識やルールの内容であっても、初めから一方的に教える様な事はせずに、「問いかける」「一緒に考える」「どう感じたのかうかがう」ことを心がけています。

たとえば、楽器遊びをする時に、「どんな風に鳴らすのか」「どんな音が出るのか」と考えてみたり、体育遊びの場面では、「ずるい子がいたからダメだ」とルール破りを訴える子がいると、「なんでそうしてしまったのか、あの子に聞いてみようか」「じゃあ次からはどうやって遊ぶことにしようか」とまずは相手の話を聞くという機会を持てるようにしたり、自分達で新たなルールを決められるきっかけを作ったりします。どんな場面でも、「先生聞いて」と思いを伝えに来る姿がありますが、その時の様子を見て何が言いたいのか察しがついても「何があったの、次はどうしたいの」と自分で考え話せるように促します。

子どもの色々な意見を聞き、クラスで共有することもあり、「伝えたいことを聞いてほしい相手に伝える。伝わった、受け止めてもらえた。」という場面を実現させるところを大切に、それぞれが「感じる」「知る」「考える」を体感し、子どもの中で思いやイメージが湧いてきて、「話したい」「聞いてほしい」気持ちが育つと考えます。

とはいえ、クラス集団活動である「会話の時間」に十分発言できない子どももいる。そのような子どもに対し個別の関わりをもてるのが自由遊びの時間である。これに関連して、浜田はその重要性を以下のように叙述している。

事例 2 : 子どもと「小さな対話」を大切にす

様々なものに触れ、手を動かし試していくと、その行為が面白くなり、夢中になっている姿が見られます。造形遊びだけでなく、ごっこ遊びや積み木遊び、全体活動やコーナー活動、様々な場面で遊び込む子どもは、遊びながらイメージが広がり、色んなことをつぶやき、友達や保育者と会話をしながら遊びがどんどん変化しています。

「できた!」と嬉しそうに、周りの友達や保育者に見せにくる子どもの話に耳を傾けてみると、色に興味を持っている子、形が変化したことを面白がる子、ある道具を違うものに見立ててイメージを遊んでいる子など、それぞれの子どもが見ている・見えているものは様々で、子どもの気持ちに寄り添い、ゆっくり聞いてみなければ分からない事もあると感じています。

「できた!」と見せてくれたものを「何を描いたのか」と聞くのではなく、「どんなお話があるのかな」と問いかけ「これは、ここからね…ぐるーっと描いてん」など子どもが話してくれた、ありのままの言葉を作品に記録し、小さな対話の時間を持つ事も私達の大切にしている事のひとつです。

結び

本稿では ECERS に加えて SSTEWE の視点により、クラス集団活動と自由遊びについてそれぞれの視点を示した。

ECERS では集団のサイズが「クラス全体」であることを否定的に捉えるが、日本の幼児教育という文化は「みんなで作る」ことを肯定的に捉えている。クラス全体での活動では全ての子どもの思いが十分発揮できるとは限らないが、ECERS ではそれを集団のサイズを小さくすることで解決しようとし、日本の園では自由遊びの場面での個別的な関わりによって解消しようとする。SSTEWE は集団のサイズを問題にすることはなく、必要な保育者の関わりのあり方について示している。

ECERS、SSTEWE スケールの項目・指標と保育場面を参照することで保育の質を具体的に示すことができ、特徴の異なるスケールを用いることによって実践の具体像が示された。

引用文献

- ・Cryer, D., Riley, L. & Link, D. 2019 *All about the ECERS-3* Kaplan
- ・浜田真理子 2019 「木の実幼稚園の造形活動— ECERS の視点より」 未発表
- ・Harms, T., Clifford, M.R. & Cryer, D. 2015 *Early Childhood Environment Rating Scale, Third Edition* Teachers College Press (『新・保育環境評価スケール①3才以上』埋橋玲子訳 2017 法律文化社)
- ・Siraj, I., Kingston, D. & Melhuish, E. 2015 *Assessing Quality in Early Childhood Education and Care: Sustained Shared Thinking and Emotional Well Being (SSTEWE) Scale for 2-5-year-olds provision* IOE Press ULC Institute of Education University college of London (『保育プロセスの質』評価スケール』秋田喜代美・淀川裕美訳 2016 明石書店)
- ・埋橋玲子・浜田真理子 2020 環境を通して行う幼児教育・「指導計画(短期)」に注目して～木の実幼稚園の教育実践／『保育環境評価スケール (ECERS-3)』の観点からの考察～ 同志社女子大学教職課程年報第 3 号